

執筆規定

1. **原稿の仕様** 原則としてワープロソフトを用い、フォーマットに従い原稿を提出すること。
2. **提出原稿** 提出原稿は電子ファイルにてA4判とし、表紙には論文種別、論文表題(和文と英文)、執筆者名・所属(和文と英文)、代表者の連絡先(電話番号を含む)を明記すること。なお、論文採択後にも電子ファイルを提出する。
3. 論文種別は、下記の表の通りとする

論文種別	内容	文字数制限
原著論文	多文化と介護に関係のある研究成果について、科学的な根拠に基づき論理的に明瞭に記述したもの。原著論文はオリジナリティのある未発表のものに限る。	20,000 文字 (図表込みで、引用文献を除く)。図表は 600 字換算とする。
研究ノート	多文化と介護に関係のある研究成果について、科学的な根拠に基づき論理的に明瞭に記述したもの。研究ノートは、今後の発展性が期待されるものも含む。	15,000 文字 (図表込みで、引用文献を除く)。図表は 600 字換算とする。
実践研究	多文化と介護の実践及び教育に寄与するもの。今後の実践や教育の改善に対して新たな視点が期待されるもの。一定の客観性が認められれば、原著論文のオリジナリティは必要としない。	10,000 文字 (図表込みで、引用文献を除く)。図表は 600 字換算とする。
資料	調査結果、教育資料、施設における記録の一部など、多文化と介護の今後の発展や介護現場の発展と改善に寄与すると考えられるもの。	10,000 文字 (図表込みで、引用文献を除く)。図表は 600 字換算とする。

4. **図表など** 白紙に黒色インクで明瞭に書かれたものを用い、写真を用いる場合は鮮明なものを提出すること。表や図の番号は表1、図1のように記入し、図表のタイトルをつける。
5. **和文要約** 目的、方法、結果、結論の概要をほぼ把握できるように、和文で400字以内の要約と3～5項目の和文キーワードを記載する。
6. **脚注は原則として認めない。**
7. **印刷形式** 印刷の体裁は編集委員会に一任する。
8. **表記** 新かなづかい、常用漢字、算用数字を用いること。外国人名・地名等の固有名詞以外はなるべく訳語を用い、必要な場合は初出の際にだけ原語を付す。
9. 文献の記載は、日本語、外国語を問わず引用順に番号を付けて記載すること。また、本文中の引用箇所には肩番号を付けること。
(例) 佐藤は、〇〇について「・・・」と述べている¹⁾。
10. 引用文献の表記については、次のように日本介護福祉学会の『「介護福祉学」執筆要領』に従い、記述すること。
 - (1) 和文の文献
 - a. 単著の書籍の場合
著者名 (出版年) 『書名 (タイトル —サブタイトル)—』 出版社名, 初頁-終頁。
(例) 佐藤一郎 (2023) 『介護福祉学の今後 —福祉と多文化—』 〇〇出版, 18-20.
 - b. 雑誌論文や紀要論文の場合
著者名 (出版年) 「論文タイトル」『雑誌名』巻 (号), 初頁-終頁。

- (例) 佐々木次郎 (2017) 「学内実習が学生の心理面に与える影響」『〇〇学雑誌』25 (2), 61-69.
鈴木良子・高橋三郎 (2010) 「わが国の介護人材の推移」『〇〇研究』(△△介護福祉大学)12, 12-27.
・3名を超える著者については, 3名まで連記し, それ以上は「他」で表記する.
・雑誌や紀要の巻・号については, 例えば第25巻第2号を25 (2) というように表記する. また, 巻や号のみの場合は, 例えば第25巻を25と表記する.

c. 翻訳書の場合

原典の書誌情報. (= 訳本の出版年, 訳者名『書名(タイトル—サブタイトル)』出版社名)

- (例) James, I. A. (2011) *Understanding behaviour in dementia that challenges: A guide to assessment and treatment*, Jessica Kingsley. (= 2016, 山中克夫 監訳『チャレンジング行動から認知症の人の世界を理解する: BPSDからのパラダイム転換と認知行動療法に基づく新しいケア』星和書店)

d. 電子メディア情報の場合

著者名(公表年又は最新の更新年)「タイトル—サブタイトル」URL(最終アクセス年月日)

- (例) 厚生労働省 (2022) 「第23回生命表(完全生命表)の概況」
<chrome-extension://efaidnbmninnibpcapjpcgkclefindmkaj/https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/23th/dl/23th-11.pdf> (2023.1.31)

(2) 欧文の文献

a. 共著の場合

ファーストオーサーのファミリーネーム, ファーストネーム, ミドルネーム and 共著者のファミリーネーム, ファーストネーム, ミドルネーム (出版年) 書籍のタイトル: サブタイトル, 出版社名, 初頁-終頁.

- (例) James, I. A. and Gibbons, L. (2019) *Communication skills for effective dementia care*, Jessica Kingsley Publishers, 15-16.

b. 編著の場合

編者のファミリーネーム, ファーストネーム, ミドルネーム, ファミリーネーム, ファーストネーム, ミドルネーム and ファミリーネーム, ファーストネーム, ミドルネーム eds. (出版年) 書籍のタイトル: サブタイトル, 出版社名, 初頁-終頁.

- (例) Reid, W. J., Batson, C. D. and Smith, T. A. eds. (2016) *Attitudes of Older Adults about Community-Based Services*, Oxford University Press, 4-27.

c. 雑誌に掲載されている論文の場合

著者のファミリーネーム, ファーストネーム, ミドルネーム (出版年) 論文のタイトル: サブタイトル, 雑誌名 巻や号, 初頁-終頁.

- (例) Lyketsos, C.G., Steinberg, M., Tschanz, J.T. et al. (2000) Mental and behavioral disturbances in dementia: findings from the Cache County Study on Memory in Aging. *American Journal of Psychiatry*, 157(5), 708-714.

・3名を超える著者については, 3名まで連記し, それ以上は「et al.」で表記する.

11. その他の執筆に関する詳細は, 日本介護福祉学会の『「介護福祉学」執筆要領』に従うこと。